

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

草津市立玉川小学校 教諭 西田 泰子

1. 単元名 食品ロス解消プロジェクト～食品ロス問題からつながる輪～

2. 単元の目標

- 自分たちの食生活において、食品ロス問題が大きな問題になっていることを理解するとともに、その問題の解決に向けて活動されている地域の人々がおられること、またその思いに気づくことができる。 (知識・技能)
- 地域や家庭における食品ロス問題の現状について情報を集め、その情報をもとに解決策を考え、実践・発信をすることができる。 (思考・判断・表現)
- 食品ロス問題の解決に向けてなかまと協力して、地域・家庭の役に立ちたいと活動に取り組むことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

5年生の総合的な学習の時間において、例年米作り体験を行っている。本学習では、米から食品に広げ、食品ロス問題に着目して学習を進めていく。食品ロスが起きている身近なものとして、給食や家庭を入口にして調査活動を行い、調査結果をもとに食品ロス問題を少しでも解消していくために何ができるかを考えていく。

また、本校区には、環境問題を解決しようと活動されている方がおられたり、食料を提供する活動をされている町内会があったりする。食品ロス問題を通して、このような方々と出会い、学ぶ中で、地域の人々のつながりやあたたかさ、自分たちが暮らす地域のよさを実感できるようにしたい。そして、地域の方に協力する形で実践を行うなかで、児童が自分自身も地域の一員であるという自覚を高めていけるようにしたい。

(2) 児童観

本校は、南草津駅東口側からパナソニック草津工場や立命館大学びわこ・くさつキャンパスあたりまでが校区となっている。駅前の開発や、大学・工場に関わる人々の出入り等による転入者が少なくない。一方、本校がある野路町は「野路の玉川」「萩の玉川」と呼ばれる歴史のある地域である。地域の方々は地域の史跡や特産物を大切に守り、こどもたちにもふるさとのよさを感じてほしいと願っておられ、学校の教育活動にも非常に協力的である。

5年生の児童は、昨年度「みんなで作る『大好きなまち玉川』(TDGs)」(※TDGs…玉川大好きがんばるぞ作戦)と題し、地域の課題を解決しようと、地域の方々と協力して活動してきた。活動を通して地域の人々から感謝された体験をした児童だからこそ、さらに地域の役に立ちたいと意欲的に活動していけると考える。食品ロス問題について地域の方々と協力して実践を積むことで、地域への愛情を深めるとともに、地域に貢献できる児童の育成を図りたい。

(3) 指導観

まず、地域にお住まいの環境省環境カウンセラーや町内会長、給食センター職員といったゲストティーチャーから話を聞くことで、食品ロス問題が大きな問題になっていることを理解し、課題意識を持てるようにする。

さらに、食品ロス問題が自分の身近に起きている問題だと認識できるよう、給食や家庭における食品ロスの現状を調べる活動を行っていく。児童が家族と話し合う機会をつくり、家庭も巻き込んで実践を行うことで、自分事として食品ロス問題解決に取り組めるようにしたい。また、児童が楽しく活動できるように、食品ロス削減レシピックッキング活動も取り入れたい。

ただし、家庭に焦点を当てると、どうしても自分というより自分の両親が食品ロスの解決に向けて努力する（例 無駄な食品を買わない、献立を工夫する）ことになってしまう傾向がある。そこで、野路町で取り組まれているフードバンクから「5年生にフードバンクに協力してほしい」と児童が依頼を受ける展開を仕組んでいく。野路町と連携して一つの活動に向かう中で、食品ロスを減らすだけでなく、地域の役に立った充実感を味わわせるとともに、あらためて自分たちが生活している地域のあたたかさやありがたさを感じられるようにしたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…地域の人々は支え合って生活しており、自分たちの生活も支えられているということに気づく。

連携性…食品ロス問題の解決のためには、なかまや地域の方々と協力することが大切だと考えて行動する。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

つながりを尊重する態度

地域の環境カウンセラー、フードバンクを開催している方々等と関わる中で、自分たちも一緒になって食品ロスの削減に向けて地域のために行動したいという思いを高める。

進んで参加する態度

食品ロス問題の解決に向けて、地域の一員として主体的に活動に取り組もうとする。

・本学習で変容を促すESDの価値観

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

地域の人々やなかまといっしょに行動・発信することで、充実感や達成感を味わう。

・達成が期待されるSDGs

目標 1 1 持続可能な都市・まちづくり

目標 1 2 持続可能な生産と消費

4. 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①自分たちの食生活において、食品ロス問題が大きな問題になっていることを理解している。</p> <p>②食品ロス問題の解決に向けて活動されている地域の人々がおられること、またその思いに気づいている。</p>	<p>①地域や家庭における食品ロス問題の現状について情報を集め、その情報をもとに解決策を考えている。</p> <p>②フードバンクでの実践発表の場で、自分たちの考えを提案したり、発信したりしている。</p> <p>③実践を通して、食品ロス問題の解決に対する考えを深めている。</p>	<p>①食品ロス問題の解決に向けてなかまと協力して、地域・家庭の役に立ちたいと活動に取り組もうとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全21時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
1	<p>食品ロス問題と出あう。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境カウンセラー福田さんの話を聞く。 ・給食センターの動画を見る。 ・給食センター藤田さんの話を聞く。 ・野路町のフードバンクの取組について話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手前どりやドギーバック等食品ロス問題の解決に使える方法等を獲得できるようにする。 ・給食センターに返ってくる残飯がコンポストに入る動画を見ることで、食べ残しを減らしたり、啓発をしたりするなど、自分たちが行動していかなければならないという気持ちを高められるようにする。 ・困っている人を助けるフードバンクの存在を知り、地域のあたたかさや行動力の大きさに気づけるようにする。 	<p>(ア) ①</p> <p>(ア) ②</p>
2	<p>給食や家庭の食品ロスの状況について調べ、解決策を話し合い、実践する。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食の残飯量や家庭の食品ロス状況を調査する。 ・解決策を考える。 ・考えた解決策を互いに交流し、よりよい策を話し合う。 ・考えた解決策を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境等により活動が難しい児童・家庭への配慮を行う。 ・考えた解決策を互いに交流する際、「効果があるかどうか」「簡単に取り組めるか」という2つの視点を用いて話し合いを進める。 	<p>(イ) ①</p> <p>(イ) ③</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 実践後、まとめたり振り返ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの中で、できることには限りがあったり、家族ががんばる内容が多かったりすることに気づかせ、自分たちも調理に取り組んでみる展開につなげていけるようにする。 	
3	<p>食品ロス削減クッキングを行う。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーを迎え、給食で残りやすい野菜がおいしく食べられるレシピを教わり、調理する。 	<ul style="list-style-type: none"> クッキングという楽しい活動を取り入れることで、食品ロス問題の解決に向けて、前向きに活動できるようにする。 	<p>(イ) ③ (ウ) ①</p>
4	<p>フードバンクからの依頼を受けて、協力できることを考え、実践・発表をする。(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな協力ができるか話し合う。 会長に協力内容を提案する。 3チームに分かれて、計画・準備を行う。 フードバンクに参加する。 自分たちの活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 野路町内会長から直々に依頼を受けることで、意欲的に活動できるようにする。 話し合った内容から3つのチームに分かれて活動を進められるようにする。(食品の寄付チーム、食品ロス削減レシピ提案チーム、来客者からの感想チーム) フードバンクにて、参加者(立命館大学生)の感想をもらえるようにする。(QRコードを使って) フードバンクでの反応や参加者の感想をもとに振り返りを行い、地域の役に立てた充実感を味わえるようにするとともに、食品ロス問題の解決に向けて今後も行動する気持ちを高められるようにする。 	<p>(イ) ② (ウ) ① (イ) ③</p>